

3月2日東京や新潟などでは「春一番」が吹いたとのニュースでしたが、同じ日当地では北西の強い風の吹く寒い日となりました。でもこの日を境に暖かい「春」には転じたようです。一休みしていた早咲きの桜の開花や、芽の膨れが進んできたように思います。私事ですが、3月1日午前、夙川G6名のメンバーでサクラ観測地および観測木選定、採寸を実施、午後はメンバーで阪神間屈指の岡本梅園の花見（8分～満開）、ササベザクラ発祥の地「旧笹部亭」の庭園跡を訪ねました。

3月3日は班別行動で「北山緑化植物園」の植物観察。目玉は牧野博士ゆかりの「バイカオウレン」（高知・牧野植物園のロゴ）も満開でした。ミツマタ、マンサク類、ネコヤナギ類、梅花、十月桜、子福桜、1分咲きの河津桜などの花木と園芸種や野草の花々をゆっくり観て歩きました。幸い、両日共気温こそ10℃程度でしたが風もなく、初春の陽射しの中ゆったりと楽しみました。

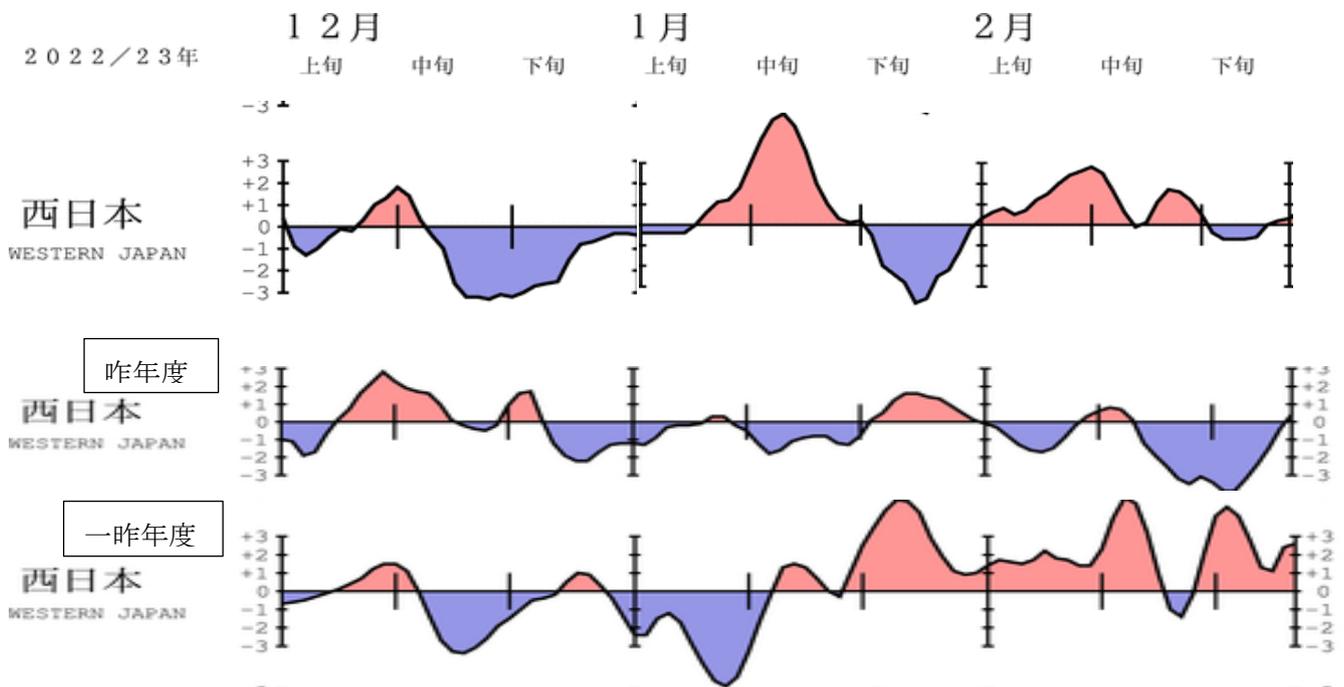
さて、本題の「サクラだより」、今年も科のサクラ調査が本決まり、各グループ共準備万端、今月からは具体的な観測も始まると思いますので情報の交換の場として続けて行きます。

本報でも例によってサクラの「休眠打破」等に大きく影響すると考えられる冬季の気温のこれまでの経緯・前年度との比較。発表の度、早めとなって来ている今期の開花予想。近所歩きで観ているサクラ類の状況、頂いた情報、前報の宿題回答等々記述しておこうと思っています。

1. 今年の冬季の気温の経過。(前報の改定)

1-1. 西日本の気温推移 (平年差・昨年・一昨年度と比較・新平年値に準拠・気象庁発表抜粋)

冬季・・・12月から最近までの西日本地区（近畿・中国・四国・九州）の気温の経緯は下図。



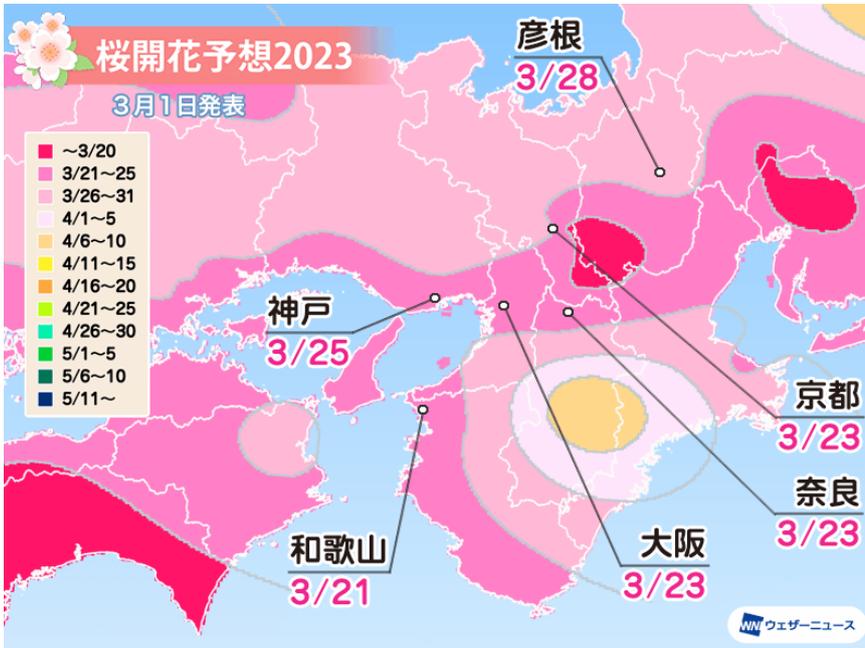
*今年の冬季は上図のように寒暖の振れの幅が大きくな年となって来ています。月単位で見れば平均値は平年並みとはなりそうですが、はたして「休眠打破」にはどう影響するのでしょうか。冬季は十分冷え込み、「休眠打破」は順調、3月以降は暖かい日が続くので開花は平年より早い見込みとの気象予報士の談。

2. 今年の「サクラ（ソメイヨシノ）」の開花予報—4

既報のように、1 月後半から、「気象予報」会社などから、本年度の「ソメイヨシノ」の開花・満開の予報が出されて来ています。本報では 3 月 1 日に発表された「ウエザオニュース」社の近畿地区の開花予報を転記しておきます。ご参考として下さい。

* 「近畿地方」

近畿の桜の開花は平年並から早い予想です。昨年と比較すると同じかやや早くなります。



* 参考: 平年の開花日

大阪 3月27日

京都 3月26日

神戸 3月27日

奈良 3月28日

和歌山 3月24日

彦根 4月1日

理由？

・「桜のつぼみ調査」では、「まだ小さく硬い」つぼみが最も多かったものの、「先が黄色に」変化したつぼみも見られ、昨年と同じくらいのペースでつぼみの生長が始まっていることがわかりました。

・3月の気温は平年より高くなる傾向で、今後つぼみの生長が加速していきそうです。

・3月21日に和歌山から開花が始まり、23日に大阪や京都、奈良が続きます。3月28日に和歌山、30日には奈良で満開となる予想です。満開の時期は平年よりやや早いか、早くなる見込みです。

*なお、日本気象協会は3月2日の発表で近畿地区の開花が最も早いのは、和歌山で3月18日、大阪が3月21日、京都、神戸、奈良が3月22日、彦根が3月26日と上記よりさらに早くなるとの予報を出しています。各社とも、平年よりは開花は早いとの予報には変わりはありません。

3. ヒカンザクラ

奄美沖縄地区のヒカンザクラの開花状況は前々報どおりですが、開花が大幅に遅れた（2月3日・・・平年は1月16日）石垣島での満開日はまだ記録されていません。昨年も開花が1月27日と平年に比べかなり遅かったのですが・・・2月22日には満開が記録されています。今年は満開には至らないかもしれませんね。

ヒカンザクラはこの附近では芦屋川河岸の公園に若木 5 本ほど植えられていますので、2020 年より観測の対象とし



て来ています。このサクラはご存じのように、原産が台湾など南方系なので休眠打破は前年の秋、奄美・沖縄地区の開花が通常 1 月ですので、本州でも秋には目覚めていることが分かっています。開花は冬季の気温に依存し、暖冬であった 2020 年は 2 月 10 日に開花、寒い冬であった昨年は 3 月 3 日の開花でした。今年は冬季の積算温度から 2 月 25, 6 日を予想していたのですが、昨年度とほぼ同じ、3 月 4 日の開花となりました。11 月下旬の異常高温が影響したかも知れませんね。

4. カワズザクラ (河津桜)

本州で最も早く咲くサクラは例年 1 月に開花する「熱海桜」ですが、門外不出で一般には広まっていません。また、日本で創出された品種でなく海外から持ち込まれたものであるとのことで、一般には本州の各地に植えられていることもあって、最も早く開花する桜としては「河津桜」と言われて来ています。

原木のある伊豆半島・河津町附近が特に有名で、毎年、河津町観光課主催の「桜祭り」が開かれて来ています。現地でも今年の冬は寒かった為、開花が遅れ勝ちとは伝えられてきていましたが、2 月下旬には満開となり、その様子が TV のニュースなどでも度々流されて来ていました。

既報のように、この近くでも日頃の散策路圏内の芦屋市・東山公園にも町内会の人々が植栽・管理している場所がり、観察地に決め観測して来ています。

前報の「東山公園・河津桜まつり」の案内文から、この公園内にはカワズザクラが 50 本も植えていると知りました。私が開花・満開日の調査に決めている樹はこの公園内では最も早く植えられた樹 3 本? の内の一本のようで、幹回りが 50 cm、横枝が張り樹高は 6 m ほどのものです。

前報でお知らせの通りこの調査木は今年の開花が 2 月 25 日、で昨年に比べて 1 週間ほど早い開花となりました。

3 月 5 日にこの公園での「河津桜まつり」が開催されましたので調査木の様子観を兼ねて出かけました。地元町内会の日本酒、甘酒等のふるまいもあり写真のように結構賑わっていました。会場付近の若木 16, 7 本は 2 分~5 分咲き、私の観察木も 3 分咲き程度にはなっていました。このサクラの花も下から上へと咲き上がることが分かります。

前報ではこの公園の特徴(高木・低木混成林)とこの公園内に植えられた苗木の様子を詳述しましたが、同じ様な現象が 3 月 3 日に班別行事で行った北山公園内の桜園で観察されました。この桜園にもカワズザクラ 3 本が植えられており、内 2 本は陽のあたる広場内で、1 分咲き程度になっていました。残る 1 本は広場の隅、南側、東側には常緑ないしは夏季には葉をつけるコナラの樹々に囲まれ、春~



夏にかけては日陰となると予想される場所でした。この樹の樹高は開花している2本と殆ど変わらず、恐らく同じ時期に植栽されたと思われましたが、花どころか、蕾も1個もなく、枝先から展葉が始まっていました。この光景は前報で詳述した東山公園での現象と全く同じでした。

少なく共「カワズザクラ」は陽樹。春～夏の期に直射日光が届かなければ花芽を作れないと断じて良さそうです。また、ヤマザクラでも日陰にある個体では花数が少ない様にも思われます。

「ソメイヨシノ」についてはどうなのか？出来れば比較して見て下さい。



5. セイヨウミザクラ

3月に入って暖かい日が続くので、カワズザクラに続いて次の出番は、シナミザクラの開花であろうと予想。3月5日の夕方に近くのマンションの樹を観に行ったら、こちらの方は芽が膨らみ、蕾が顔を出した状況でした。数日内には開花すると思われます。一方、この樹の近くに植えられている「セイヨウミザクラ」の方は既に20～30輪ほどの花が開いており、開花はこの日の朝と思われました。翌6日昼前には3分咲きとなっていました。

実桜系は、開花すると3日～5日の短期日で満開となるので油断できません。しばらく重点観察です。



6. カンザクラ (寒桜・別名は元旦桜)

前報でお二方からの情報及び写真の提供を頂き、これを頼りに検索し、ヒカンザクラとヤマザクラの交雑種と考えられ「カンザクラ」ではないかと思ひ解説致しました。

その後、高原さんから、3月3日の班別活動で奈良・平群へ行かれた時、の写真2



葉をお送り頂きましたので、掲載させていただきます。同地区には5~6本が植えられており、満開をちょっと過ぎたくらいで若葉の展葉も見られたとのことでした。ヤマザクラ由来の赤茶っぽい若葉が見られたこともあり、「カンザクラ」に間違いはないと思われたそうです。少し早いお花見が楽しめたようですね。

7. 前回の設問の回答

前報での設問は：最近「ソメイヨシノ」の表皮や、切られた枝先で下のような物を見られたことはありませんか？この樹脂状のものは何でしょうか。サクラの生き様とどう関係しているのでしょうか。と言う問いかけでした。私が気付いたのは2月の中旬でした。



左は冬の始めに枝切りされた断面、右は樹皮表面からのもので、この季節だからこそ見られる現象です。残念ながら何方からも正答は得られませんでした。お答えする前に下記の引用文をお読み下さい。

*イタヤカエデの樹液の採取

採取の時期2月初旬：樹齢20年以上、幹回り25cm以上の個体を選ぶそうです。幹にドリルで穴をあけ、ホースを差し込むと樹液がポタポタと滴り出します。一週間ほどで18リットルのタンクがいっぱいになります。樹液が採れるのは雪どけ2月のころのひと月の間だけです。

この時期、楓は大量の水を吸い上げ、樹全体に行きわたらせて芽吹きを準備をします。

*芽吹き前の「揚水」は何もイタヤカエデに限ったことでは無く、落葉樹全般に観られる現象です。サクラ・ソメイヨシノとて例外ではありません。先日の科内研修でこのことはお話ししたはずですが、ただこの揚水と樹脂状の物の関係に付いては上の記事からだけでは類推は難しいかも知れませんね？



*樹脂状のものを剥ぎ取り、水に入れてみました。この結果が下の写真です。樹脂状のものは約3cc程度のものですが、約20ccの水に完全に溶解、剥ぎ取った表皮と繊維だけが見られるようになりました。樹脂状のものはロジンの様な油脂状物ではなく、水可溶性であることから糖質状のものと判断されます。この結果から、樹脂状のものは「揚水」によって運ばれて来た「栄養分（糖質）」と考えられます。



こう考えれば、新しく切られた枝先の樹脂状物については、「揚水」道が切断され、漏れ出た「液」から水分が蒸発したため固化したとご理解頂けるでしょう。

*上の写真のような樹脂状物は Y クラスの樹の樹皮では見られず Y,S クラスに多く見られます。私自身は下記の様に考えています。

- ・樹が大きくなるほど、根の集水能力は高い。当然揚水量も多くなる。
- ・揚水は徐々になく、短期間に大量におこる。
- ・短気、大量の送液に伴い、樹の下部ほど「液圧」？が上がる。この結果、樹皮の弱い部分からの液漏れが発生して、水分の蒸発で、樹脂状となった糖質が残る。
- ・樹脂状物は水溶性ですので、雨水でも流されます。従って見られるのはこの季節だけです。

*なお、樹体下部で液圧（内部圧）が上がったと思われる現象は、液漏れ⇒樹脂物生成以外にも樹皮表面のクラック発生や、表皮の膨張？痕からも類推することができます。（下の写真）

*また、この季節の液漏れ⇒**樹脂化現象**などは、他の落葉樹、例えばアベマキ（樹脂は黒色）などでも見られます。

皆さまのお近くの A,S 級サクラは勿論やアベマキ、クヌギなどの大木を観て見て下さい。 以上

